



横浜みどりアップ計画

地域緑のまちづくり事業

R E P O R T

●地区名 末広地区

●団体名 末広地区緑のまちづくり協議会



◎所在地：鶴見区 末広町1丁目、末広町2丁目、弁天町、小野町の一部

●取組期間
5か年

●協定締結期間
平成24~28年度

横浜みどりアップ計画とは

緑の減少に歯止めをかけ、「緑豊かなまち横浜」を次世代に継承するため、「横浜みどり税」を一部財源として活用しながら、「横浜みどりアップ計画」を進めています。

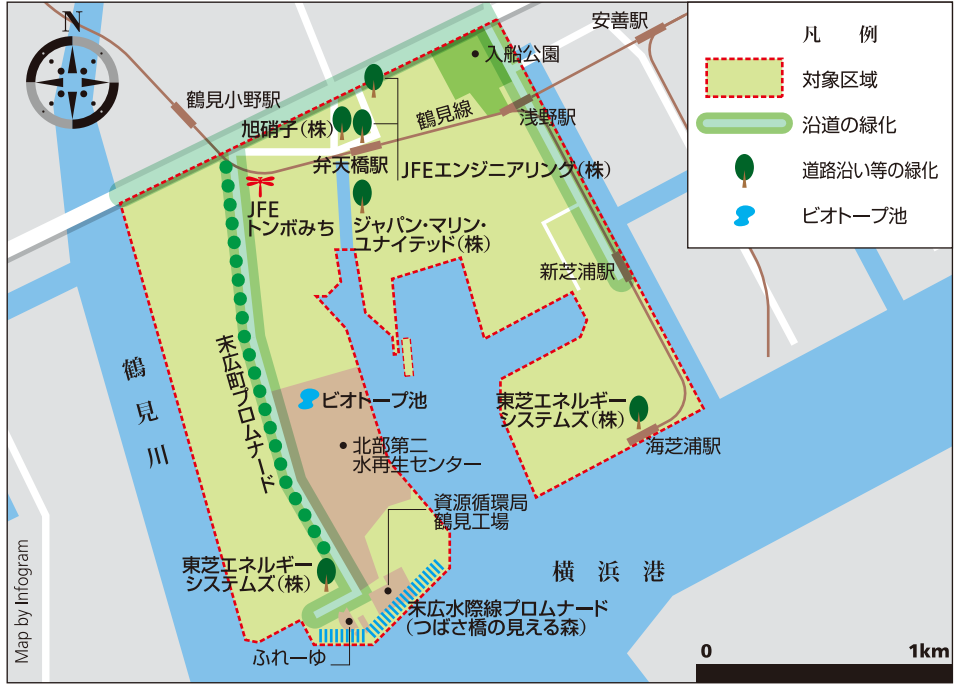
横浜みどりアップ計画



地域緑のまちづくり事業とは

地域が主体となり、住宅地や商店街、オフィス街、工場地帯など様々な街で、地域にふさわしい緑を創出する計画をつくり、市民との協働により緑化を進めるものです。

地域緑のまちづくり事業



地区の範囲図及び緑化実施場所

団体の概要・地区の諸元

末広地区緑のまちづくり協議会は、京浜の森づくり事業で協働緑化宣言を行った地区内の企業（協定締結時12社）を中心に、公開された企業緑地で活動する市民ボランティア団体（トンボみちファンクラブ）で構成された団体です。JR鶴見線鶴見小野駅、弁天橋駅及び浅野駅から臨海部への玄関口となっており、バス通り（末広町プロムナード）を中心に、これに連なる大規模な事業所が立地し、「横浜サイエンスフロンティア地区」として、まとまりのある産業地区を形成しています。また、北部第二水再生センターの環境保全林等の公共施設の緑とともに、「東芝・海芝公園」や「JFEトンボみち」等での緑地の公開や生物多様性の保全などの協働緑化事業が進められています。

取組（計画）の概要

豊かな環境の産業拠点づくりに向け、地域の緑や海に開かれた水際空間などの魅力を活かして、緑と水と生きものが相乗して奏でる協奏曲が聞こえてくる地域環境を形成するため、公・民の協働による「地域緑のまちづくり事業」に取り組みます。公・民が共有する「地域緑化計画」に基づき、公園緑地及び公共施設の緑化と、工場等の民有地の緑化整備及びそれぞれの維持管理活動とあわせて、「地域の緑」として育て、「緑の将来像」の実現をめざします。また、公共施設や民有地の緑の拡充・活用を企業・市民・行政の協働により展開し、地域での多様な環境行動の連携を図ります。



- ① 入船公園の草原ビオトープ
- ② 旭硝子(株)のフェンス緑化
- ③ JFEエンジニアリング(株)のプランター緑化とフェンス緑化
- ④ 東芝エネルギーシステムズ(株)の緑地整備とビオトープ池(緑地見学会にて)
- ⑤ ジャパンマリンユナイテッド(株)の緑化整備(シダレヤナギの補植)
- ⑥ 末広町プロムナードでの草刈(維持管理活動)
- ⑦ 北部第二水再生センターの緑化整備(公共施設緑化)

5か年の主な取組実績

● 助成金額合計 38,471千円

民有地緑化

歩行者環境を豊かにする緑や、生態系に配慮したビオトープづくりなどが進みました。JFEエンジニアリング(株)横浜本社や、東芝エネルギーシステムズ(株)など7か所で、外周部のフェンス緑化や、周辺環境に配慮した、憩いの空間となるビオトープの整備などを行いました。

活動支援

市民と企業が協力して、様々な緑化活動が行われました。市民と企業が協力し、会員企業の花壇や、末広町プロムナードの植樹帯等の延べ29か所で、年2回花苗の植替えや、維持管理活動を継続して行いました。そのほか、会の活動の共有のため、月1回広報誌を発行や、地区内の緑地見学会等を行っており、その内容や継続性について、まちづくりの専門家から高く評価されています。

公共施設緑化

地区のメイン通りである末広町プロムナードの植栽帯の再整備や、北部第二水再生センターにおいて、地区のシンボルである「トンボ」を呼び込むビオトープ池等の整備を行いました。



5か年の取組を振り返って [地区のインタビューのコメントから抜粋]

地区内の沿道沿いが、フェンス緑化やプランター緑化によって、花や緑を意識したものになり、来訪者や就業者から、「ブロック塀で圧迫感のあった歩道が、緑の歩道となって、とても気持ちの良い空間となった。」などの声が聞かれるようになりました。また、企業の担当者からは、「市民と連携して地域活動を行っていることが、社内の地域貢献モデルとして高く評価されています。」との声も聞かれました。現在も横浜の貴重な水辺である末広水際線プロムナードでは、月1回の清掃活動を継続して行っており、今後も地域の緑を守っていく活動を行っていきます。



お問合せ先

横浜市環境創造局みどりアップ推進課
Tel.045-671-3447 | Fax.045-224-6627
メール ks-ryoka@city.yokohama.jp